

令和7年度第4回地域課題協議部会 記録

開催日 令和7年7月16日（水）10:00～12:00 国立市役所3階会議室

出席者 福祉サポートライン、エプシロン、なびい、みなも、たまぶらねっと、ハッピーテラス国立駅前、サプラ
猫日和、くにたち発達支援センター、しょうがいしゃ支援課

1.前回の振り返り

前回決定したWG（登下校問題についてとヘルパーの仕事の魅力）の確認。

2.本日の議題

①決定したWG以外に他に取り組むWGがあるか。

スクリーニング表にある「差別・理解不足」について、小項目は今後の検討となるが、定期的に話し合う必要がある課題だと思う。こちらについてもWGを作りたいと思うがいかがか。

→賛成意見多く、3つのWGとすることになった（登下校問題について、ヘルパーの仕事の魅力、差別・理解不足）。

「差別・理解不足」WGでは、家探しの困難さやスマホの契約といった事柄についても話し合うことができ、そこに民間の関係者も参加してもらえれば理解促進につながるのではないか。

他にWGを作る必要があるか分からないが、居場所の不足や自主制作品を販売する場の充実といったことについては、すぐ検討できるのではないか。WG以外で話し合うことができたらいいと思う、という意見もあった。

②決定済みのWGには、今後具体的にどのような活動をしてもらうか 進め方、期間等について

登下校問題について

・高校生になると（支援学校では）、スクールバスが使えなくなる。また市内の通級等は登下校に保護者等の付き添

いを必須としている。どちらも家族が付き添えない場合移動支援、地サボ等の利用が必要になるが、ヘルパーが見つからない場合が多いという問題。背景にはヘルパー事業所の人手不足、また学校の下校時間が時期によって変更することが多く、人を見つけにくいという点が考えられる。

- ・WGの進め方として、まずは問題点をはっきりさせるためにヘルパー事業所や当事者・家族にアンケート調査を行ってはどうか（登下校に関して付き添いできずに本人を休ませたことがあるか、逆に保護者が仕事を休んだことがあるか、また通学している子供たちにも調査ができるといい等）。

- ・情報提供として 都内支援学校では、PTA 連合がスクールバスや放デイ等について要望を取りまとめ、毎年都に提出している。また、武蔵台学園でも同じように PTA が保護者等の要望を取りまとめ、各市町村に提出している。→取りまとめた結果を見せてもらうことは可能か。武蔵台学園については可能。PTA 連合については、コンタクトを取る必要がある。

- ・市より アンケート調査について意見。当事者にアンケートということだが、当事者とは誰を指すか（事業者は分かりやすいが）。サービス（移動支援）を使えていない利用者を対象にする場合、その情報はどうやって得るのか。市としては、支給決定しているということはサービスを利用することが前提のため、サービスを使えないというアンケートを配布するのは難しいかもしれない。→どちらにしても今ここで決められないので、持ち帰って検討となった。

- ・アンケートの内容、配布方法については、再確認となる。

- ・WGのメンバーについては、8～10名程度を想定。外部からも参加してもらいたい。例えば、学校関係者、送迎等について陳情したことのある保護者、調査を得意とする大学などの教員、実際に困っている当事者・家族等。またWGの参加について、参加者の公募を市報に載せることも希望。→市より、記事の締め切りが3カ月前になっている。どの号に掲載できるか確認する必要があるため、持ち帰って検討とのこと。

- ・期間については、R7年10月の全体会でWGについて説明。それから実際にWGが動き出す→R8年3月の全体会で進行状況を説明→R8年10月の全体会で結果報告。このようなスケジュールでどうか。

ヘルパーの魅力

- ・人材不足解消に向けて、イベントの開催等を企画できないか。
- ・以前地サポのイベントを行ったと思うが、どんな感じだったのか。→市より回答。矢川プラスで1月に開催。多くの人が参加（場所柄とくに子供が多かった）。1人、地サポに登録してくれたと思う。
- ・ヘルパーの仕事について魅力を拡散できればいい。実際働いている人にも参加してもらい発信できるような企画を考えられたら。
- ・WGの参加者は、推薦と公募でどうか。

差別・理解不足

- ・目的は、障害者への理解、差別の解消（物件探しの困難さ、スマホ契約時の説明不足等含む）。
- ・イベントや研修を行えたらいいのではないかと。当事者は差別に慣れてしまっていて、それが差別なのか分からなくなっていることがある。→勉強会の開催
- ・市の職員に対して、当事者が講師になって行った研修は、数年前にやったが継続できていない。続けて行ってきたいが。
- ・WG参加者は、当事者を中心に考えていきたい。障害によって違いもあると思われるので、ゲストで加わってもらう人がいてもいいかもしれない。
- ・本来は当事者部会があって、そちらで話し合うべきかもしれない。以前の当事者部会メンバーに声をかけてみる。それと公募で募集。

部会メンバーの参加の仕方は

- ・そもそも部会メンバーは、WGに参加するのか。→それぞれのWGに事務局が入るのはどうか。また委員は希望を聞いてWGに参加してもらおう。

・WGに参加しない委員は何をするか。→残った項目について取り組んでいく（ここにも事務局が入る）。WGや他の課題についての取り組みについては、随時進捗状況等を確認できるといい。

・今後の予定として。

WGが実際に動き出すまでは、全体で検討を行う。

事業所によっては月のうち複数回の参加が難しい場合もあるので、そこは考慮する。

WGについても、定期的に報告する。

市報に公募の記事を掲載する場合、3カ月前に原稿提出しなければならない。原稿については、8月の部会を待つと遅くなってしまうので、掲載が可能ならば原稿内容はメールで回してもらい内容を確認。

・8月の部会でもう少し内容を詰める。その時に参加するWGについても検討。

宿題として

WGで何をするか（参加したいWGがあるか）。

WGに参加しない場合、何をするか。考えておいてもらいたい。